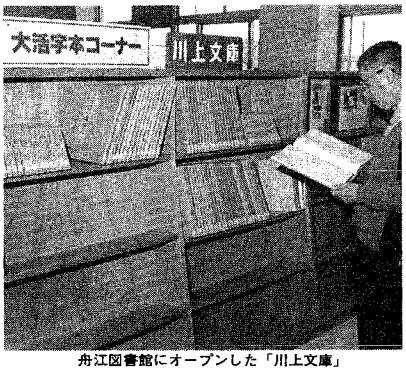
弱視者のための「川上文庫」オープン

大活字本64冊で発足

故川上喜八郎前市長の遺族の寄付金をもとに、目の不自由な人が利用できる大活字本を集めた「川上文庫」が、北部コミュニティセンター（附船一）内の舟江図書館に五月十七日オープンし、一般に貸し出しを始めました。

今回購入したのは、「シーから」「春琴抄」「天平の甍」「トン動物記」「アンデルセン童話選1～4」「太陽の子」などの児童文学から、「それから」「春琴抄」「天平の甍」などの名作や「英和辞典」まで全部で六十四冊。

大活字本は、字の大きさが文庫本の約四倍と大きく、目の弱い方や視力の衰えたお年寄りにも大変読みやすくなっています。



舟江図書館にオープンした「川上文庫」

現在、二発行所から五百冊が発行されていますが、ほとんど注文製作のため、今回入手できたのはこの六十四冊だけ。舟江図書館には、これまでも、市の予算で四十冊を購入しており、随分利用されています。

「川上文庫」は、読書好きで知られた川上前市長の遺族が、香典の中から七百万円を寄付し、そのお金を基金に、福祉に力を注いだ故人の遺志を生かして、大活字本の「川上文庫」を設立したものです。

計画では、基金の利息で、毎年約百冊の大活字本を購入する予定です。図書の購入や収集などは、点訳奉仕グループ「目陽会（佐藤エイ子代表）」が「川上文庫の会」を発足させて当たっています。

難波佐次郎さん（77歳、上大川前十）は、「新聞に出ていたので早速来ました。字が大きくて大変読みやすい。これからも借りに来たい」と話していました。

市長ノート

今年は豪雪に見舞われた。わが家の庭の残雪の中から、最初にちょぼり顔を出した福寿草。咲き残ったさざんかの花が三つ四つ。そんな頃、梅のつぼみがふくらんでくる。

ヒアシンス、ラッパ水仙、椿、まんりょうの実、ボケ――次々と美を競う。この時期になると、そろそろ梅の花が散り始め、桜が満開になる。公務で訪れた四月十七日（日）の鳥屋野湖畔と内野小学校の校庭の桜も、それぞれ満開であった。桜並木から花びらがひとひら、ふたひらと舞い落ちる風情は格別で、多忙な仕事のことを、一時忘れさせてくれる。

春（わが家の庭）

わが家の庭の「わらび」が細い首をもたげる。「アスパラ」の旬（しゅん）が、韮（にら）の卵とじと一緒に朝の食卓を飾る。キウイのつるが元気を出してきた。そのことで家内が何か考えているようなので「早く"手"をしなければ…」とポツリ。

畑は白一色のビニールのトンネルだ。雪の頃から丹精して育てられた苗が、夜を目について伸びてゆくーやがて訪れる夏の日に、冷やしてかぶりつく、甘くてうまい西瓜の温室である。サギ草の芽が出て、娘がおくればせながら、三十余りの鉢に植え替えた。西瓜が出荷される頃には、真っ白なサギに似た優雅な姿を見せてくれることだろう。

さて、今年のわが家の梅は何キロ取れるか占いたい。少なく見積っても三十キロかな……。庭のりんごの花の少ないのがちょっと気にかかる。

一雨ごとに暖かくなり、草木のすべてに生気を与えてくれる様は、自然の摂理とはいえ、その偉大さを今更のように感じさせる。間もなく、新緑の燃える季節を迎える。

（四月二十五日）

新潟市長　君枝光喜

「坂井輪地区」バドミントン初級者教室

日時 六月二・九・十六・二十三日・三十日（計五回）午後一時～八時四十五分（開場六時四十五分）
会場 東青山小学校体育館
対象 坂井輪・五十嵐・小針・小新中学校区在住一般社会人
持参品 室内運動靴、ラケット、シャトル二個
申し込み 当日直接会場へ
問い合わせ 市体育課坂井輪地区スポーツ教室係（☎67―一八三四）へ

公民館講座と教室ご案内

園芸講座

坂井輪地区公民館

日時 六～十二月　毎月第二月曜日、午後一時半～三時半
運営費 千円　**定員** 五十人
申し込み 電話で坂井輪地区公民館（☎69―二〇四三）へ
内容 松の手入れ、つばきの剪定、生け花、盆栽、ハーブ、ガーデニング、ハーブ料理、ハーブ入浴剤、ハーブ入浴剤、ハーブ入浴剤